

## 2019年 ラスベガスでの AAOS で発表させていただいて

整形外科学教室 大学院1年 守倉 礼 (平成27年入局)

今回3月12日から16日にラスベガスで開催されたAAOS (American Academy of Orthopaedic Surgeons) で発表させていただいたので報告させていただきます。

演題名は「Partial-thickness Rotator Cuff Tear Itself Did Not Cause Shoulder Pain Or Muscle Weakness In Baseball Players」です。野球選手における関節包側の腱板不全断裂は肩痛や筋力低下の原因になるのか? という内容です。日本肩関節学会でも発表させていただいた内容でした。発表の約半年前、三幡先生よりAAOSで「採択されましたよ! こんな機会は滅多にないので是非発表してください」と連絡が来ました。AAOSの演題採択率は約1割程度と狭き門であり、採択されることは名誉なことだと後で知ることになりました。ベリタス病院の先生方にお休みの許可をいただき、ラスベガスで発表させていただくこととなりました。私は英語が大の苦手であり、アメリカ人の前で発表できるのか……とますます心配になり、AAOSの発表の日にちが近づくにつれて楽しみから不安へと変わっていききました。大学でのリハーサルが無事に終わり、根尾教授からは「いつもの笑顔で頑張っただけ」と励まされ、AAOSで発表したことがある安田先生から、「守倉、こんなに若い頃にAAOSで発表できるやつはなかなかおらんで、発表中 white out にはならないように一応原稿持っていきや、質疑応答で答えられるようにちゃんと考えていきや」と発表経験の貴重な助言をいただき、横田先生からは「守倉君、あの発音だとアメリカ人の2割程度しか理解できないよ、アクセントの位置をしっかりと確認しておいて」とご指摘をいただきました。リハーサル後からの1週間、google 翻訳に原稿をペーストして、機械の音

声を録音して何度も聞き、発音の練習、原稿の暗記に努めました。

日時は過ぎ、出発の日を迎えました。

病棟の看護師さんなどからはお土産よろしくねーなどたくさん言われましたが、そんな旅行気分ではありませんでした。不安でいっぱいでした。会場に着くと長谷川先生と伊丹先生と合流、事前参加登録ができることを知らず、登録に時間かかりました。発表者は参加登録料が無料であるため、AAOSの係員に発表者であることを伝えるとOh! Great! とアメリカ人らしいオーバーなリアクションをいただきました。発表する部屋に行き、会場の広さに驚きました。日本人の発表者はほんの一握りで、ほとんどがアメリカ人でした。発表までの間に2人の先生方にハンバーガー屋に連れて行ってもらいました。大きいハンバーガーを無理やり胃袋に詰め込んで、私は発表の不安で頭がいっぱいになっていました。ハンバーガーを食べながら私がノートに記載した想定外の質疑応答を長谷川先生にみていただき、いくつか修正、追加していただきました。発表までの間は原稿、質疑応答原稿を一人何度も頭の中で繰り返しました。スマートなアメリカ人の発表の後、僕の発表が回って来ました。いざ、発表が始まると、思っていたほど緊張はせず、white out することもなく無事に終えることができました。質疑応答では全く想定外の質問をされてしまいました。超音波検査でSLAP病変はあったか? という内容でした。私は質問内容が上手く聞き取れませんでしたので、長谷川先生に代わりに答えていただきました。



## 国際学会に参加して

---

終わった後、長谷川先生よりお疲れ様とお言葉をいただきました。「ここで僕が答えないとわざわざ付いて来た意味がないと思ったよ」と長谷川先生はおっしゃっていました。僕の発表の付き添いのためだけに仕事を休み、ラスベガスまで来てくださり、本当に感謝しています。質疑応答に全く答えることができず、悔いが残りました。

終わった後は、アメリカらしい分厚いステーキを長谷川先生にご馳走になりました。至れり尽くせりで本当に頭が上がりません。発表が終わった後は、地球の重力が半分くらいに軽くなったような感じがしました。翌日は伊丹先生の留学先の方々と食事をしました。三幡先生も学会3日目あたりから合流となりました。三幡先生が招かれている肩肘を専門とする整形外科パーティーにも参加させていただきました。そこにはメジャーリーガー大谷の手術をした先生も来ていました。後に聞くと肩肘のトップの集まりであったそうです。三幡先生はそこではもちろん有名人で、アメリカ人から写真撮影をお願いされていました。世界の三幡先生を直に感じました。

今回このような発表の機会を与えてくださった三幡先生、お休みを許可してくださったベリタス病院の辻村院長、服部先生、森本先生、福本先生、私のためだけに付き添ってくださった長谷川先生、学会

中夕ご飯をご一緒させていただいた伊丹先生、本当にありがとうございます。

これからもこのような機会があると思いますので、また頑張りたいと思います。

